

CJD 二次感染対策と CJD サーベイランスにおける脳波検査

研究分担者：太組一朗 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科

研究要旨

プリオン病感染予防ガイドライン 2008 年版（以下 GL2008）が上梓されて既に 5 年が経過した。本年度も CJD サーベイランスに参加するとともに、CJD インシデント事例の現地調査等を行い、GL 浸透に必要な要素を検討した。また、CJD サーベイランスにおける脳波検査の取扱いに関する検討を行った。

A. 研究目的

プリオン病感染予防ガイドライン 2008 年版（以下 GL2008）が上梓されて既に 5 年が経過した。これまで、神奈川県における GL 浸透調査や定位機能外科領域における GL 浸透調査を行ってきた。GL2008 の実施が浸透すれば CJD インシデント認定されるケースは減少する。本年度みとめられた 1 例の CJD インシデント事例を現地調査等により検討した。また今年度は形成外科領域において GL に関する学会発表を行い、同領域での GL 理解を促した。

一方、これまで CJD サーベイランスにおいて脳波検査がなされている。脳波検査は診断基準等にも採用されている重要事項であるが、最近の検査機器の進歩に対応してどのようにすればデータをより効率よく生かせるか、という視点での検討を行った。

B. 研究方法

CJD サーベイランスに参加するとともに、1 例の CJD インシデント事例について現地調査を行った。脳波検査の検討においては、既サーベイランスデータから後方視的に検討を行った。平成 26 年度第 1 回 CJD サーベ

ランス委員会で検討された新規症例における、調査票添付資料としての脳波データ記録用紙・コピー画像を検証した。

(倫理面への配慮)

CJD サーベイランス・インシデント事例検討とともに、個人情報の流出がないように配慮した。

C. 研究結果

【結果：脳波データ検討】

脳波検査状況の調査対象となる新規検討症例は 194 例であった。このうち脳波データ添付されたのは 17 例であった。脳波取得年月日は全例調査票の記載と凸合にすることにより判明した。誘導・振幅・フィルター条件のいずれか記載あり 12/17 双極誘導表示 1/17 脳波検査報告書の添付 4/17 複数回の脳波データ添付 1/17、デジタルデータのプリントアウト 10/17 という結果であった。

【結果：形成外科領域での演題発表】

形成外科領域では、GL2008 の理解を進める余地があると考えられた。

D. 考察

CJD 診断における脳波検査の位置づけは極めて重要である。脳波検査記録用紙や検査所見はしばしば判定の対象となっており、10秒間の脳波検査記録用紙コピーが1枚あるだけで PSD の有無が視認され、診断をより確実なものとしてきた。PSD は画一的でなく徐波化した脳波所見が将来 PSD に移行する、というものがある一方、過去には PSD 様所見を有する患者においても CJD が否定される症例も少なからずあり、客観性をもった真の PSD とは何かを追求する余地がある。また、個々の CJD 患者では日内変動があるのか或いはどのような臨床状態で PSD が消失していくのか、通常周波数外の高周波信号などデジタル信号解析で判定できる点はないのか、その上での脳波所見と遺伝子多型との関連は何か、など、解決されるべき問題点も存在すると考えられた。

GL2008 に関する演題発表（形成外科領域）では、GL2008 に対する関心を高める余地があるものとの印象をもった。

E. 結論

CJD サーベイランスにおいても、今後の脳波データ蓄積にはデジタル化データを収集することによる検討が、より正確な診断への蓄積になると考えられた。

GL2008 の将来的な改定にあたっては、形成外科領域とも密に連絡したうえでの対応が有用であるものと考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表（2014/4/1～2015/3/31 発表）

1. 論文発表

- 1) Nakamura Y, Ae R, Takumi I, Sanjo N, Kitamoto T, Yamada M, Mizusawa H. Descriptive Epidemiology of Prion Disease in Japan: 1999-2012. J Epidemiol. 2015 Jan 5;25(1):8-14.
- 2) 太組一朗、斉藤延人、山田正仁、中村好一、森田明夫 周術期における医療安全 器機の洗浄・滅菌 p9-17 In 脳神経外科 周術期管理のすべて 第4版（編）松谷雅生、田村晃、藤巻高光、森田明夫 2014年メジカルビュー社 東京

2. 学会発表

太組一朗 森田明夫 寺本 明 百束比古 秋元正宇
頭蓋変形・頭蓋底変形をここまで治す
PD II-1 整容脳神経外科の取り組み
2014年11月7日 第32回日本頭蓋顎顔面外科学会、大阪
（プリオン病二次感染対策を概説した）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし